



宮古島の過去の津波災害について

過去に宮古島で津波被害があったことを知っていますか？

今から250年前、西暦1771年4月24日に発生した石垣島南東沖の海底を震源地とする大地震（推定マグニチュード7.4）が発生しました。

この地震発生後に襲ってきた大津波、いわゆる「**明和の大津波**」が宮古島地方へ襲来し多くの犠牲者が出ました。

『球陽』等の資料によれば、宮古島では地震後まもなく続けざまに三度、津波に襲われ、波の高さは12～13丈(約36～39m)、3丈5尺(約10.7m)、2丈5尺(約7.7m)にも達したとされています。平良狩俣にある明和の大津波による津波到達地点では、標高17mまで到達しています。この大津波による宮古島地方での被害は、多良間島、水納島を含む12ヶ村に及び、死者は2,548人にも上ったと記録されています。特に被害が甚大であった宮国、新里、砂川、友利の犠牲者の多くが与那覇の前浜に流れ着き、その遺体は前山に合葬されたと伝わっています。

与那覇前浜後方の丘陵地(俗称：前山)の中には、犠牲者を弔うために「乾隆三十六年三月十日大波」碑が建立されています(写真)。※



写真「乾隆三十六年三月十日大波」碑
気象台職員撮影

住民の皆さんは、このような津波災害から身を守るために、気象庁から津波警報・注意報が発表された場合は、海辺から離れ、より高い安全な場所へ避難するなど、日頃から備えておきましょう。

※参考、宮古島市教育委員会「綾道」HPより：<https://miyakojimabunkazai.jp/bunkazaiinfo3198/>

宮古島地方気象台

検索



宮古島地方気象台ホームページ
<https://www.data.jma.go.jp/miyako/>

お問い合わせ先：宮古島地方気象台 TEL:0980-72-3054(平日のみ/8:30～17:15)

